

## 平成20年度 第2回御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会

日時 : 平成20年12月18日(木) 午前10時~午前11時30分

場所 : 市役所第3会議室

出席委員 : 前田慶子・福島正昭・勝亦祐貴・志水香苗・渡邊恵子・芹澤敏弘  
・本多 淳・渡辺好美・近藤八重子・岩田和博・芹澤知輝・伊倉富  
一・芹澤節巳・上道久仁子・勝又正美・山本育実・杉山泰芳・山崎  
和夫・湯山益栄

東部パレット : 野村事務局長(御殿場市民活動支援センター)

事務局 : 内田課長・瀬戸補佐・勝又主幹・勝又主事

### 1 会長挨拶

社会情勢が混沌としているなかで、厳しい経済状況もあり予算も厳しい。このような時代は市民協働で乗り切っていくしかないと思う。市民の力でまちを良くしていくしかない。10月にオープンした市民活動支援センターの状況報告のため、東部パレットからも出席をいただいている。報告を聞いて、支援センターと協議会が連携し、どのようにサポートしていくか今後の課題としていきたいと考えている。

#### (1)市民活動見本市実施報告について

資料により事務局から説明

説明要旨

- ・「生活フェア」「生き生き健康づくり推進大会」と合同開催したので、来場者10,000人、参加団体35団体の大きなイベントだった。
- ・駐車場等の課題はあった。
- ・市民活動団体が個々の力を発揮し、団体ではできないハード面での協力を行政が担うという協働の成果が現れたイベントだった。
- ・合同開催の相乗効果があった。
- ・来場者、参加団体のアンケートも概ねよい評価だった。
- ・振り返り会議を行い、協働の視点での評価を行った。

委員A : 非常に賑やかなイベントだった。今回で3年目だが、市内にはイベントが多すぎるという中で、合同開催にし、イベントの質を高めていくことが必要となる。今回のイベントでは、各事業を担当する行政側の担当同士の連携がよくなかった。特に開会式がその例である。総

体的に調整ができるような体制ができると今後はよくなっていくと思う。

委員 B：相互検証総括表の中の改善したほうがよいことの中に、「市民活動見本市としての趣旨を理解してもらう方法を検討する必要がある。」となっているが、どのように改善するかまで示す必要があるのではないかと。体育協会は良くやっていたが、行政側の 3 課を取りまとめる人がいなかったことが課題だと思う。

事務局：振り返り会議の中では、様々な意見が出たが総括表では概要のみとした部分が多い。課題については、今後、検討していきたい。

委員 C：行政の 3 課による反省をやっていただく必要があると思う。駐車場の関係については、もともと懸念されていたこと。たくさんの来場者があったことは成果だし、アンケートの数値は客層の違う生活フェアの来場者も合わせたものなので、市民活動についての設問の数字も決して低いものではないと思う。ただし、参加してみたい人に機会を提供していくことは課題となる。

事務局：関係課の中で、リーダーシップをとることがなかった。ステージ部門をはじめ来年度に向けて改善していきたい。

委員 A：駐車場の課題は、これからもあること。バスの利用等を市民に理解してもらうことも必要。

パレット：今回はじめて参加したが、他の市では、一部の市民が熱心に行っているケースが多いので、みんなに参加意識のある御殿場市民の力は素晴らしいと思う。

委員 A：この事業は、行政提案として実施しているが、体育協会が 3 年連続で協働している。市民活動見本市は継続していく必要があるので、来年度に向けて実施体制等の検討をお願いしたい。

## (2)御殿場市民活動支援センターについて

資料により N P O 法人東部パレット野村事務局長から説明

説明要旨

- ・ 10 月 1 日のオープンから 2 ヶ月経過した。オープン当初は、大型イベントがあり、市民活動室を知ってもらうように P R に努めた。
- ・ 駅から離れている場所だが、たくさんの来場者があり、利用者数も順調に伸びている。

- ・最近は、グループの打合せの利用が増えている。また、チラシ作成等の支援を行っている。各団体が困っていることを支援していきたい。
- ・今後は、市民活動団体の活動・研修を進めていきたい。
- ・市民が使って活かされる場所なので、気持ちよく使ってもらえる場所にしたい。

委員D：ボランティアビューローについて、配置や新しい施設に慣れない等の理由で以前より使いにくいという話がある。真摯に受け止めなければならぬ。それぞれ調整をしているので、いい結果が出るようになると思う。

パレット：支援センターのスタッフが不慣れな部分もあった。市民活動団体の協力者のスタンスをもっていきたい。協議会の委員からも意見をいただいて検討していきたい。

委員A：ボランティアビューローが交流センターに移ってよかったとなるようにお願いしたい。

事務局：支援センターには、いい活動をしていただいている。現在、市民活動室のレイアウト変更を検討している。

委員A：ロッカーの利用・スタッフのシフトはどうなっているか。

パレット：ロッカーについては、今のところ利用が少ない。大型ロッカーを使いたい・2個使いたいという希望があるので検討していきたい。  
スタッフについては、常時2名体制で配置するため、6名でシフトを組んでいる。

今後は、市民活動室の利用団体だけではなく、市内の様々な団体とも連携していきたい。

委員A：公の施設であるので、平等性が大切である。熱心すぎて独占するような団体があれば、関係者で対応を調整してほしい。

パレット：今のところはない。県東部パレットでは、利用率が高いため1団体の利用回数を制限している。今後の検討課題だと思う。

委員B：メールボックスの利用が少ない。既に活動している団体等への周知に市役所の関係課がPRしていったらどうか。

パレット：たくさんの団体が登録してくれないと効果が少ない。登録団体を増やしていきたい。

委員C：施設全体の管理者との調整はどうなっているか。

事務局：関係する指定管理者・社会福祉協議会・ボランティア連絡協議会・

支援センター・地域振興課で、月１回の運営協議会を開催して、情報共有と検討を行っている。

委員Ａ：東部パレットのネットワークを活かして、有名な講師を呼ぶなど、県事業等との合同で実施したらどうか。

パレット：１月１７日に県法規室と協力して公益法人改革についての説明会を開催する。また、県ボランティア連絡協議会が、平成２１年度に県ボランティア研究集会を実施する方向で検討しているようだ。

委員Ａ：市民活動団体が、公共を担っていこうとすることをオープン前から検討してきた。支援センターが情報公開していくことが必要。豊かな情報をもつことで、各団体の接点となしてほしい。

事務局：市民協働型まちづくり推進のために、支援センターと協議会の連携について次回から検討していただきたい。

委員Ａ：行政は、定数の削減もあり、ひとりひとりが多大な業務を抱えているので、職員だけではできないこともある。市民活動への参加希望はあるので、うまくつなげる方法を考えてほしい。

また、市民協働型まちづくり事業補助金事業もすでに終了したものもある。いい事業が展開されて、結果も出ている。

### (3)その他

事務局：１１月１７日にＮＰＯ活動推進自治体フォーラムに、協議会研修として参加した。参加できなかった委員に、当日の資料を配布したので参考にしていただきたい。

事務局：委員のみなさんも交流センター・市民活動支援センターの様子を見ていただきたい。

次回の協議会は、２月下旬の予定です。